

## 第 88 回麻布獣医学会 一般演題 7

## 簡易子宮洗浄器具の作成

亀森 泰之<sup>1</sup>, 久田野 歩<sup>1</sup>, 石井 さやか<sup>1</sup>, 石井 一功<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 岡山県農共連南部診療所, <sup>2</sup> 石井動物病院

### 1. はじめに

乳牛において繁殖成績は以前と比較し、泌乳能力の飛躍的な上昇とは逆に年々悪化の傾向をとってきている。原因としては、栄養障害から発生する卵巣疾患や、子宮疾患により長期不受胎となっている牛も散見される。その対策として、臨床現場では卵巣疾患に対するホルモン剤の投与及び子宮疾患改善のための子宮薬液注入や子宮洗浄が施されている。しかし、子宮洗浄は手技に労力を要することと、子宮損傷などの危険を伴うため敬遠されがちとなり、家畜感染症学会が行ったアンケートにおいても、時間と手間が掛かるため試験的にも子宮洗浄を行わないという回答が 66.5%となっていた。そこで今回、安全で処置時間が短く、技術的にも簡単に実施できる簡易子宮洗浄器具を作成したので紹介する。

### 2. 材料と方法

子宮洗浄に使用した器具は、一般に子宮薬液注入に使用されているビニール製の子宮薬液注入器具で、先端に 2 つある直径 3 mm の穴を 5 つに増やしたものをを用いた。薬液の注入および排出チューブには注射用補液管のチューブを使用し、Y 時コネクタにより連結した。排出チューブの先には給油に用いるポンプを取り付け、洗浄後の薬液の排出がスムーズに行えるようにした。また、子宮薬液注入器の途中に処置時子宮損傷

を防ぐためのストッパーを取り付けた。試験牛は、管内で飼育されている子宮内膜炎に罹患した乳用牛 7 頭に使用した。そして、今回使用した器具により子宮内膜への損傷の有無を屠畜場での牛子宮を用いて調査した。

### 3. 成績

子宮内膜炎罹患牛に対して使用した結果、通常の子宮薬液注入を行う手技で子宮洗浄嘴管を子宮内に挿入することができ、ストッパーを取り付けているため子宮洗浄嘴管の固定も容易で、洗浄後の薬液の排出も速やかに実施できた。そして、子宮損傷を起こすなどの事故も生じることも無かった。また、屠畜場での子宮内膜への損傷試験の結果、子宮洗浄嘴管がビニール製であるため子宮内膜の損傷が少ないことも肉眼的に確認した。

### 4. 考察

今回作成した簡易子宮洗浄器具は、臨床現場ならどこでも手に入れることのできるものであり、挿入が容易な上、ストッパーにより注入器具の固定ができるため子宮損傷の危険性が低く安全で、排液も吸引することで速やかに実施でき、熟練していない獣医師であっても事故無く使用できることが分かった。